

発行 者
久宝寺小学校区まちづくり協議会
会長 笠原 彰
久宝寺地区福祉委員会
委員長 佐野 公一
八尾市北久宝寺2丁目1番1号
電話 072-922-2233



許麻の里

沢辺に生ふる

かきつばた

君か手毎に

水やかかさん

いつまでも 心豊かに住み続けたいまち久宝寺!! ～みんな一人ひとりがまちづくりの主役となって～

新春号



コロナ禍を超え みんなの声を合わせて!

昨年5月8日から、新型コロナウイルスが「5類」に引き下げられ、今や、「ウイズコロナ」から「アフターコロナ」の日常生活が定着しつつあります。

この数年は、「久宝寺地区福祉委員会」と「久宝寺小学校区まちづくり協議会」の事業活動も制約を受けましたが、本年度上期には、皆さまのご協力とご支援のもと、コロナ禍以前の活動をほぼ取り戻すことができました。

「久宝寺地区福祉委員会」では、恒例行事の「好きやねん久宝寺まつり」や「市民スポーツ祭」を4年ぶりに開催するなど、「生活更生部会」「青少年部会」「高齢者部会」「保健部会」「ボランティア部会」「総務部会」の各部会の活動も、本年度事業計画に沿って進めることができました。

また、「久宝寺小学校区まちづくり協議会」では、昨年3月に策定の「第三期わがまち推進計画」のもと、5つの目標に向けて計画の初年度に相応しい事業を展開しています。
(*5つの目標は、前号をご参照ください。)

本年も、「久宝寺地区福祉委員会」と「久宝寺小学校区まちづくり協議会」は、「車の両輪」のごとく、「いつまでも心豊かに住み続けたいまち久宝寺」の統一スローガンを掲げ、関係団体をはじめ住民皆さんの声を集め、力を合わせて、みんなが主役の取り組みを進めてまいります。

♡コロナ禍が残したもの!

令和2年当初からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、三度の全国的な「緊急事態宣言」や、地方自治体によって数度の「まん延防止等重点措置」が発出され、移動を伴う行動や外出の自粛などの感染防止策が呼びかけられました。

イベントの中止や冠婚葬祭が縮小され、店舗・職場や地域など、あらゆる場所でのマスクの着用をはじめとして、「三密(密閉・密集・密接)」の回避や、人と人の距離の確保が基本的な対策として打ち出されました。

そして、この数年間の自粛生活の中でそれが常体として定着し、人間関係や人々の意識を大きく変えたのではないのでしょうか。

今や、観光地はもとより街や地域に人の波が戻りつつあります。

しかし、リモート会議・就業などオンラインの活用も進みましたが、その余波として、「人との繋がりは薄いまま」のこの間に浸透した習慣が、「イザという時」などの弱点になると考えざるを得ません。

♡イザという時に備えて!

また、新年を迎えたこの時期は、平成7年1月17日に発生した「阪神淡路大震災」、また平成23年3月11日の「東日本大震災」の教訓を振り返る節目に当たります。

南海トラフ地震が30年以内に発生する確率が70%とされ、このような巨大地震がほぼ確実に起こるとされており、コロナ禍のこの間にも、「福島沖地震」や「能登半島地方を震源とする地震」などの大きな地震が発生しています。

さらに、穏やかな新年を迎えたと思われたこの元日の夕方には、「石川県能登地方」で最大震度7の地震が発生し、津波や家屋倒壊・大規模火災などの甚大な被害が発生し、「東日本大震災」の記憶がよみがえりました。

また、6400人以上以上の死者・行方不明者を出した「阪神淡路大震災」では、救出され生き延びることのできた人の約8割が、家族や近所の住民によって救出され、消防・警察や自衛隊によって救出された方は約2割という調査結果があり、「公助の限界」と「自助・共助によるソフトパワー」の重要性がクローズアップされました。

久宝寺地区では、これらの背景のもと、「第三期わがまち推進計画」の第一の目標として、「ひとりも取り残さず、守り合う安全安心なまちづくり」を掲げ、「イザの時に備えて」の取り組みを進めています。

♡令和5年度「久宝寺地区防災訓練」を実施しました!

昨年11月26日(日) 9時30分から12時まで、久宝寺小学校グラウンド・体育館とその周辺や旧久宝寺幼稚園跡地で、地区を挙げての「防災訓練」を実施しました。

今回の「防災訓練」は、体験型の訓練を通じて、「自助・共助」について、また、子ども達も含めてご家族で「防災」を考えていただくことを目的としました。

訓練として、グラウンドでは、「水消火器による消火訓練」「小型ポンプ放水訓練」「煙中体験」、体育館では「AED取扱い訓練」「簡易担架訓練」「防災クイズ」を、また体育館周辺では「車いす体験」を行いました。

各訓練の終了後は、旧久宝寺幼稚園跡地の「かまどベンチ」を活用しての「炊き出し(豚汁)試食」と、避難所でも出来る「足湯」を体験し、参加の皆さまは、訓練後の癒しのひと時を過ごしました。

今回の「防災訓練」は、子ども達も関心をもって参加しやすいうように、各訓練を「スタンラリー」で体験し、また、ご家族や個人で都合によって参加いただいたように進めました。

子ども達やご家族づれの参加が多くあり、各訓練ブースは、今まではない活気と元気が溢れた雰囲気になっていました。



♡「地区防災計画」を策定しています!

東日本大震災の経験により、平成25年の「災害対策基本法改正」で、地域コミュニティにおける「共助」を推進するために、「地区防災計画制度」が創設され、八尾市では、令和2年から、各小学校区で地域特性に即した計画の策定支援を始めています。

久宝寺小学校区でもこれを受け、「第三期わがまち推進計画」の中で事業の一環として掲げ、昨年9月に「地区防災計画」の策定に着手しました。

「地区防災計画」には、住民同士による「安否確認」、安全に避難できる道を確認する「避難経路」、避難所運営を行うための「避難所運営マニュアル」が織り込まれます。

久宝寺地区でも地域によって居住形態や道路状況などの特性があり、自治振興委員会のブロック・町会別に取組む計画とし、まずは、B・D・Gブロックをモデル地区として、先行的に策定を進めています。

* (Bブロック) 本町
(Dブロック) 北久宝寺住宅、北町
グリーンマンション
(Gブロック) シャルム久宝寺緑地、南町、南久宝寺神武、南久宝寺、リーデンス

昨年9月23日(土)には、久宝寺コミュニティセンターで、「策定趣旨の共有と各ブロックの地域特性の整理」をテーマに第一回目のワークショップを、また、11月26日(日)には、「安否確認と避難経路・避難場所」をテーマに第二回目のワークショップを開催しました。

各ワークショップには、当該ブロックの防災リーダーが参加し、ブロック別に討議・検討を行い、計画の骨子を整理しました。

今後は、モデルブロックの計画を他のブロックに横展開し、久宝寺小学校区「地区防災計画」をまとめます。

皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

♡「かまどベンチ」新設と「炊き出し訓練」実施!
まちづくり交付金を活用し、新たに、「かまどベンチ」が「久宝寺第2公園」に設置されました。

「かまどベンチ」は、レンガ囲いの土台に座板を乗せたベンチで、災害時には「かまど」として使われるなど、地域の防災のシンボルです。

また、製作の過程を通して、地域の皆さんのつながりや防災意識を強めるなどをめざしています。

災害時や防災訓練のみならず、日頃の憩いや交流の場として大切にしていきたいでしょう。(裏面に続く)



新年1月14日(日)、新設の「久宝寺第2公園」や、「旧幼稚園跡地」「府営北久宝寺住宅」「府営久宝寺住宅」「グリーンマンション」に設置の「かまどベンチ」を活用して、「炊き出し訓練」を実施しました。

災害時には、長期にわたった避難生活を強いられる。そこで大切なもののひとつが「食」であり、そのようなときにこそ温かい食事が求められます。

「炊き出し訓練」は、そのときに備えて、食材や調理用具の準備をはじめ、多人数への食事提供のための調理と配食の要領や、それらの時間配分について体験するものです。

各会場では、地域の皆さんが、力を合わせて協力し、準備・調理や配食をされ、豚汁やカレーを味わっていただける姿がありました。



♡日頃から 準備やルールづくりを！

イザというときには、「共助」の支えになる。「自分の命は自分で守る」という「自助」の考え方が基本になります。

「阪神淡路大震災」の別の調査では、自力で脱出した人、家族・友人・隣人などによって救出された割合が9割を超え、救助隊によって救助されたのは、わずかに17%という結果があります。

また、どの力がどの位の割合で必要となるかは、「自助」共助・公助「7・2・1」とされています。

イザ災害が発生すると、そう簡単に「何とかできる」「何とかなる」ものではありません。

そこで、日頃から災害に備えて、次のような準備やルールを決めておくことが大切です。



- ① 避難場所・避難ルートを決めておく。
- ② 防災マップで避難ルートや近くの避難場所・避難所を確認しておく。
- ③ 身を守る方法を知っておく。
- ④ とつきの時に身を守る方法を訓練しておく。
- ⑤ 連絡先・連絡方法など安否確認方法を決める。
- ⑥ 離ればなれになったとき、互いにどう連絡を取るか家族で決めておく。
- ⑦ 飲料水・食料の備蓄や非常用品を準備しておく。

最低限3日分の備蓄と非常用品置き場所を確認する。(写真) 「非常持ち出し品リスト」を参考に、家で余っているものや、防災訓練などで配布された用品で揃えてみました。



⑤ 懐中電灯などをすぐ使える所に置き停電に備える。

⑥ 避難場所・連絡先などを書いた防災カードを作る。

そして、「自分で何とかできなくなった場合」に力になってくれるのが、隣近所の人々です。

日頃からの付き合いや、防災訓練などの地域行事・町会活動を通じて、隣近所の人と顔なじみになっておくことも大切です。

♡手づくりのテーマパーク「わくわくD.O.ようちん」

わくわくD.O.ようちん実行委員会 近松 真定

昨年11月11日(土)久宝寺小学校で「わくわくD.O.ようちん」を開催しました。

日頃勉強に励んでいる子ども達が、楽しく元気に過ごし、遊びを通して健やかに成長していくことを願って開催しているもので、久宝寺小学校PTAを中心に、福祉委員会の関係団体が協力して、企画から準備・運営までを手づくりで実施しています。

今回も、子ども達に喜んでもらえるようにアイデアを出し合い、身体を動かして楽しめるゲームを考え工夫を加えました。

運動場ではコースのミッションをクリアしてゴールをめざす「わくわくチャレンジ」「わなげ」「スーパードールすくい」を、体育館ではピンポン玉をカップに狙って入れる「ピンポンカップ」「ミニボッチャ」など、盛りだくさんのゲームを準備しました。

参加した350名を超える子ども達は、走ったり全身を動かしたり、また、友達同士でお互いに励まし合いながら、ゲームを楽しんでいました。



♡みんなで「昔の遊び」

11月24日(金)久宝寺小学校体育館で、久宝寺小学校一年生との交流授業「昔の遊び」を、授業の三・四限目に、関係団体有志の協力のもと開催しました。

時代を超えて愛されてきた「昔の遊び」は、エンターテインメントやゲームなどが浸透している今では、あまり見かけなくなりました。

しかし、「昔の遊び」には、五感を刺激する遊びが多くあり、「創造力を育む」「集中力を伸ばす」「体を鍛える」「コミュニケーション力を育む」などの点から見直されつつあります。

今回は、「おじゃま」「ゴム飛び」「おはじき」「まりつき」「こま回し」「けん玉」「ケンパ」などの昔懐かしい遊びで、子ども達と地域の大人が一緒に遊んで遊べました。



遊びを教え伝えた久宝寺地区福祉委員会関係団体の大人たちも、童心にかえって楽しみ、子ども達から元気をもらい、一方、初めて「昔の遊び」に触れた子ども達には、新鮮な興味と楽しい思い出として、これからの生活を豊かにする機会になったのではないのでしょうか。

♡令和5年度大阪府安全なまちづくりポランティア団体表彰を受賞しました！

子どもは、事故や犯罪から自ら被害を避けるといふ能力が不十分で、被害によって本人や保護者などが被るダメージや、社会に与える不安も大きくなります。

このような悲惨な子どもの被害は、絶対に防止しなければなりません。

久宝寺地区では、自治振興委員会を中心に関係団体や地域の有志の皆さんで、小中学生の登下校時間帯に合わせて「地域パトロール」や「朝の見守り活動」を実施しています。

とりわけ、「朝の見守り」では、顕証寺交差点・新町一丁目辻・南久宝寺一丁目信号付近など、交通量が多く危険な6か所を中心活動しています。

今回の受賞は、これらの活動を、日常的・組織的に、意見交換を行いつつ実施し、地域の防犯力向上へ繋げた功績によるものです。

朝の30分、子ども達だけでなく、地域の安全をみんなで守っていきましょう。

多くの方のご参加とご協力をお待ちしています。



♡イベントも再開「ほっとステーション」

ほっとステーション実行委員会 潮 孝治

新型コロナ感染拡大により、他の行事と同じように「ほっとステーション」もこの間は中止することになってしまいましたが、この間は中止することになったものの、令和4年の夏ごろから感染が終息に向かい始め、再開しましたが、「密」を避けるために広報活動も控えていたため、利用者も少なくなっていました。

コロナ感染症が5類になったのを機会に、「音楽イベント」を企画するなど、広報活動も積極的に進めたい。

オカリナや三味線・ジャズの演奏など、スタッフもアタフタするほどの賑わいもどおり、参加の皆さんからは「久しぶりに楽しかった」「感動した」と多くの声寄せられました。

これからもいろんなイベントを企画しますので、美味しいコーヒーとともに、地域の皆さんの社交場としてご利用ください。



♡みんな力を合わせて地域を大掃除！

歳末の12月10日(日)、清々しく新年を迎えられるよう「地域一斉清掃」を実施しました。

日頃は手の届きにくい側溝の汚泥やごみ・落ち葉の収集や、収集場所への運搬に取り組みました。



♡コロナ禍を超えて「火の用心」と「拍子木」の響き！

年の瀬の恒例行事「歳末夜警」を実施しました。

久宝寺地区自治振興委員会が中心となり、12月28日(木)に、自治振興委員会の七つの町会ブロックで、それぞれの町内の夜回りを行いました。

コロナ禍を超えて、大きな「火の用心の声」と「拍子木の音」が、久宝寺の各地域で、夜空に響きわたり、来たる穏やかな新年を願いました。

